

指導教員（主査）：山本祐輔 講師

副査：XXX 教授

2018 年度 静岡大学情報学部 卒業論文

XXX に関する研究

— サブタイトル —

静岡大学 情報学部 IS プログラム 所属

学籍番号 XXXXX

静岡 花子

2018 年 12 月 13 日

概要

これはアブストラクトです． 300 字程度でまとめてください．

目次

第 1 章	LaTeX の使い方	4
1.1	LaTeX 環境	4
1.2	見出し	4
1.3	文字装飾	5
1.4	箇条書き	5
1.5	図	5
1.6	表	5
1.7	引用	5
第 2 章	はじめに	6
第 3 章	関連研究	7
第 4 章	提案内容（このセクション名は内容に応じて変更）	8
第 5 章	評価実験	9
第 6 章	結果	10
第 7 章	考察	11
第 8 章	おわりに	12
参考文献		13

図目次

表目次

第 1 章

LaTeX の使い方

本章では LaTeX の使い方をちょっとだけ解説します。LaTeX は内容とスタイル（見た目）を切り分けて文書を編集することができるソフトウェアです。コマンドを駆使して、美しい文書を作成することができます。

1.1 LaTeX 環境

環境構築が嫌いな人は OverLeaf を使いましょう。OverLeaf はオンライン上で LaTeX を執筆できる環境です。自分の PC/Mac の環境を汚さない、環境構築に苦労しないというメリットがあります。一方、インターネットに接続していないと執筆作業ができないというデメリットがあります。

環境構築に抵抗がない人は自分の PC/Mac 上に LaTeX 環境を構築しましょう。世の中には様々な LaTeX 環境があります。最も有名なのは TeXLive です。こだわりがなければ TeXLive のウェブサイトからソフトウェアをダウンロードしインストールしましょう。インストールが完了したら TeXWorks というアプリケーションを起動してください。このアプリケーションを使うことで、LaTeX で文書を作成することができます。

1.2 見出し

文章を構造化するには、内容を章別、項別に整理することが重要です。例えばこの文書では「第 1 章 LaTeX の使い方」が章に対応し、「1.1 LaTeX 環境」が節に対応します。LaTeX では `section` コマンドを用いることで章見出しを、`subsection` コマンドを用いることで節見出しを作成することができます。実際の使い方については、`contents/text`

ディレクトリにある `latex.tex` ファイルの中身を覗いてみてください。本章に対応する LaTeX ソースが確認できます。

1.3 文字装飾

1.4 箇条書き

1.5 図

1.6 表

1.7 引用

第 2 章

はじめに

これは「はじめに」です.

第 3 章

関連研究

本章では，関連研究について記す．

第 4 章

提案内容（このセクション名は内容に応じて変更）

本章では，●●を行うための xxx の方法について述べる．

第 5 章

評価実験

本章では，提案手法に関する評価実験について記す．

第 6 章

結果

本章では，5 で述べた実験の結果について記す．

第 7 章

考察

本章では, 6 で記した結果について考察を行う.

第 8 章

おわりに

本稿では，●●を行うための xxx の方法についての提案を行った．

参考文献

- [1] E. F. Codd, “A Relational Model of Data for Large Shared Data Banks,” Communications of the ACM (CACM), Vol. 13, No. 6, pp. 377–387, 1970.

謝辞

本研究の遂行ならびに論文の作成にあたり，ご指導を賜りました XX 大学 XX 先生に謹んで深謝の意を表します．

本論文をまとめるにあたり，副査として有益な御助言と御教示を賜りました XX 先生に心より感謝の意を表します．

本研究の遂行ならびに論文の作成にあたり御協力いただいた，XX 大学 XX 研究室の皆様へ感謝致します．特に，XX してくれた XX 君に心より感謝致します．

最後に，これまで暖かく見守ってくれた両親に感謝します．

20XX 年 3 月 静岡 花子